中国地域創生に向けて 概要

第1章 2030年に向けた潮流と中国地域の特性

2030 年に向けた潮流

中国地域の特性

会の成熟化

争とアジア市 場の拡大

1. 人口減少と社 2. グローバル競 3. 脱炭素社会の 4. 世界的なもの 5. 世界に誇れる 6. 恵まれた地理 到来

づくりの拠点

地域資源

的特性と社会 基盤

第2章 中国地域が目指す将来像

1. 中国地域の課題と方向性

課題

人口減少・成熟 既存産業の国際 社会に適応した 地域創生

競争力強化と成 長するアジア市 及促進 場の取り込み

新エネルギーのものづくりイノ 開発拠点化と普(ベーションの推りへの地域資源) 進と新たな成長 産業の育成

観光やまちづく の活用

産業振興や地域 活性化への恵ま れた条件の活用

方向性

「しごと」の新たな価値づくり イノベーションを通じて 就業機会と付加価値を生み出す 「しごと」づくり

「まち」の新たな価値づくり これからの産業活動および 暮らしの場としてふさわしい 成熟社会に適応した「まち」づくり 「ひと」の新たな価値づくり 新たな価値を生み出す 創造力豊かな 「ひと」づくり

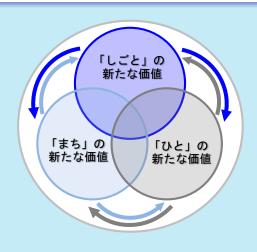
2. 中国地域の将来像〜新たな価値をつくる「陰陽五県」の創生〜

「しごと」「まち」「ひと」が好循環する 大小様々な「経済圏」の形成

「しごと」を起点に「まち」「ひと」づくりを一体 的に進め、これらが好循環する経済・生活の両面 で自立性が高い地域のまとまりを、中枢・中核都 市圏から農山漁村までの多様な地域単位で創出

大小様々な「経済圏」が連携・交流し 新たな価値をつくる「陰陽五県」の創生

大小様々な「経済圏」が相互に連携・交流するこ とで、中国地域全体でも「しごと」「まち」「ひと」 が好循環し、相乗効果によりさらに自立性を高め る「陰陽五県(広域経済圏)」を形成





3. 将来像の具体的な姿(2030年頃の姿)

「しごと」の新たな価値づくり 活発なイノベーションを通じて 成熟社会に適応した「まち」の新 進む「国際競争力のある産業に支」みやすい魅力的な地域」として、 たな市場を開拓

「まち」の新たな価値づくり な就業と豊かな暮らしを実現

「ひと」の新たな価値づくり

「ひと」の新たな価値づくりが進 「しごと」の新たな価値づくりが たな価値づくりが進む 「豊かで住」む 「創造力豊かな多様な人材の溢 れる地域」として、若者が地域に **えられた地域」として、力強い既**地域の規模や特性に応じた機能 愛着を持ち定着するとともに、産 存産業と成長する新産業により新 整備と魅力づくりが進展し、多様 業・地域を担う多彩な人材が育ち 地元で活躍

第3章 中国地域創生プロジェクト

1.「しごと」の新たな価値づくり

次代を拓く	○航空機産業の育成		
ものづくりの育成	○医療関連産業の育成~医療機器、医薬品~		
既存製造業の革新	○自動車産業集積の維持・強化 ○コンビナートの再生		
新エネルギーの技術開発	○木質バイオマスの利活用 ○次世代エネルギーの実用化~石炭ガス化発電、水素エネルギー~		
アジア等海外市場の開拓	ジア等海外市場の開拓 ○農林水産物の輸出と農林水産業の再生 ○インバウンド観光の振興		
横断的な方策	〇企業・工場等の戦略的誘致 〇ロボット導入等によるスマートマニュファクチャリングの推進 OloT 利活用による域内工場のマザー工場化 〇推進体制の整備(マッチング、金融支援、産学官連携、海外進出支援等)		

2. 「まち」の新たな価値づくり

中国地域発展の核となる 中枢・中核都市づくり	○都心の高次都市機能強化(情報通信機能、流通機能、業務サービス機能等) ○高次都市機能集積拠点の強化(学術研究拠点、流通・物流拠点) ○風格と潤いのある利便性の高い都心づくり		
中国地域の一体的発展を 支える中小都市づくり	○基礎的な生活サービス機能の集約拠点の形成 ○移動手段の確保と移動・通信サービスの提供 ○個性的な地域資源を活かした活力と魅力のあるまちの形成		
中国地域の多様な個性が 輝く農山漁村づくり	○小さな拠点の形成 ○多様な住まいとライフスタイルの創造		
横断的な方策	〇「経済圏」の形成に向けた地域間連携の推進 〇インフラの整備と利活用 〇情報発信の強化 OIJU ターンの受け皿整備 〇安全・安心なまちづくり		

3.「ひと」の新たな価値づくり

_ /,	○郷土に愛着や誇りを持つ若者の育成 ○地元企業への就職の促進	
産業人材の確保・育成	○時代の要請に応える高度専門人材の育成○外部人材の活用・招聘による人材確保・育成への支援○現場労働力の確保と熟練技能の継承	
TAUTOU TO ()	○多様な人材の発掘・育成○外部人材の活用○人材の相互交流とネットワークの強化	
横断的な方策	○大学と官民の連携強化 ○多様な人材の活用に向けた環境整備	

第4章 「しごと」「まち」「ひと」の好循環をつくる経済分析

①製造業が集積する都市(周南市)、②農山村地域の都市(真庭市)、③市町が連携する都市圏(備後圏域)を事例として、産業連関表による経済分析を行い、地域特性に応じた「経済圏」形成の施策を検討

		対象産業		
		現状の基幹産業と関連産業	その他の産業	
生産力		○基幹産業に対する地域の立地優位性の	○連携型の基幹産業の創出(商業・サービス	
	(稼ぐ力)	維持・強化	産業に関わる観光産業、6次産業化)	
	の強化	○基幹産業における企業間連携の促進	○企業誘致による基幹産業の多様化	
の	経済循環力	○基幹産業を中心とする漏れの少ない経	○まちなか産業(商業・サービス産業)の振興	
要素	(回す力)	済の形成(基幹産業と関連産業の総合	○地産地消の推進	
712	の強化	的な支援)	○生活支援サービスの供給チェーンの構築	